



## ときしみず ジオめぐり

たたみいし

### 畳石 深海で暮らした生き物の痕跡

土佐清水の北東部にある布崎では、エリア北東部（下ノ加江や布、立石のあたり）に広がる在岬層の中でも砂岩、泥岩、凝灰岩からできた地層が連なっている様子がよくわかります。この地層は前回、紹介したようにプレートの沈み込みでできた「付加体」の地層で、約2000万年前の深海でできた地層です。

特に布崎の南東岸には、泥岩と凝灰岩の層が交互に30mほどにわたって広がっていて、ほかの地域の付加体との比較のために重要な地層となっています。灰白色～緑灰色の凝灰岩と、黒色の泥岩の境目には深海で生きていた生物の生痕化石群が含まれていて、それぞれの地層の色のコントラストによって観察しやすくなっています。

布崎の北東約100mの海岸には高さ5mを超える岩盤がそそり立っていて、「畳石」と呼ばれています。畳石では、泥岩と凝灰岩の白黒の縞模様の地層がきれいに見えます。

これらの地層は在岬層の状況を観察するのにとても良い場所ですが、在岬と同様に岩だらけの海岸を30分以上歩く必要があります。

土佐清水がもっと楽しくなる!? ジオ的視点の土佐清水案内!



案内人 土井 恵治 (ジオパーク専門員)



### ACCESS

布地区から、海岸を歩いて30分ほど。左の写真のような大きくせり上がった岩が畳石です。

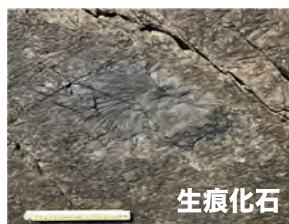


畳石



黒い部分 泥岩 白い部分 凝灰岩

◀地層がきれいな縞模様になっていて、堆積の様子が観察しやすくなっています。



生痕化石

◀中心から放射状に線が広がっているのが、深海生物(ユムシの仲間)の住居の化石です。

### 用語解説

#### 凝灰岩 (ぎょうかいがん)

火山灰が堆積し固まったもの。様々な色のあるものがあるが、在岬層のものは白っぽい。

#### 生痕化石 (せいこんかせき)

生物の遺骸ではなく、排泄物や動いた跡など生活の痕跡が残された化石。生き物の体の化石である体化石ではわからない古生物の行動や生活環境などを知るための手がかりとなる。



おお～！迫力のある岩やね～ 黒と白とのシマシマの地層がきれいに見えちようね。



これは、約2000万年前に深海で積もった砂や泥、火山灰が海洋プレートの沈み込みで陸側に押し付けられてできた「付加体」の地層だよ。プレートの動きや大地の隆起で、陸になったんだ。海底火山が噴火したことや、深海の生物が暮らした様子が地層からわかるよ。当時の深海の様子を想像しながら、じっくり観察してみよう！

### ここにも注目！



畳石のある磯の上に広がる小高い山の森山は、お椀を伏せたような形をしていて、清水方面から国道を走っているときにもその様子がよく見えます。頂上の平らな面と山の裾野の平らな地形が特徴で、これは、波で削られた平らな磯が地震などで持ち上がった海成段丘という地形です。昔は捕鯨のために鯨を見張る監視所があったと言われています。

